

田苗代湿原

田苗代湿原は、藤里駒ヶ岳（1,158 m）北側のふもとにある人里離れた湿原である。何千年も前に山の一部が崩落して平らな草原ができ、そこに雨水が集まって湿原が形成された。食虫性のモウセンゴケ、トキソウ、ツルコケモモ、ワタスゲ、ミズバショウなど、白神山地の他の地域では珍しい、または存在しない多くの植物がここで育つ。しかし、田苗代は、初夏に湿地の大部分を覆う美しいオレンジ色のニッコウキスゲで最もよく知られている。残念ながら、近年、地球温暖化やその他の環境要因が湿原の乾燥を引き起こしており、ニッコウキスゲは現在少なくなっている。

湿原の境界が乾燥するにしたがって、周囲の森の木々が侵入し始めている。ダケカンバ、タカネザクラ、ナナカマドは湿地環境に耐性があるため、それらは湿原に広がる最初の植物である。それらが根を張ると、土壌が十分に乾燥し、そこにブナ、マツ、スギが根を張るようになる。乾燥傾向が続くにつれて、通常は湿原の端に生える樹木が田苗代一帯に生え始めたのである。

湿原には木道が設置されており、歩行者から脆弱な生態系を保護し、ビジターの靴についた外来種の種子が湿原に持ち込まれるのを防いでいる。